

電子黒板に できること できないこと

上野 貴子*1

1. はじめに

日本の学校教育の長い歴史の中で、黒板にチョークという授業形態はずっと変わりませんでした。現在でもその授業形態が日本の主流であることは間違いありません。現在私はアクティブボードという電子黒板を使用し、授業を行っています。その結果、生徒に対して視覚的に訴えたり、授業の流れがスムーズになったりなどの利点があったものの、従来の黒板による授業との違いに戸惑う生徒が多いことも事実です。そこで、自らの経験から電子黒板の利点と欠点について考察していくことにしました。

2. 『地理の授業を行う立場の長年の悩み』

現在、東洋英和女学院中高部では社会科の地理の授業でアクティブボードという電子黒板を使用し、授業を行っています。地理の授業は、女子生徒にとって苦手意識の強い科目です。その苦手意識の強い地理を何とか、自分たちの生活に身近なものとして、興味をもってもらうにはどうしたらよいか、ずっと悩み続ける日々でした。

地理の授業では、日本だけでなく、世界の自然、地形、農業、工業を学びます。しかし、授業の内容において教科書や資料集に載っている写真や資料だけでは物足りない部分が多くありました。世界の国々のスケールの大きさやあらゆる産業における私たち日本人の想像を絶するような手法などは、教師が授業中に言葉だけで説明するには不十分で、その問題点をどのように解消していくかが大きな課題でした。

また、地理では必ず地図を描きますが、教師が黒板に手書きした地図を生徒がノートに写すと、実際の形ではない地図が生徒のノートに描かれることも多く、都市などの正確な位置を判断することが難しい点もありました。

3. 『視聴覚教材の利用』

最初は、書画カメラやビデオなどを使用し画像や映像を見せたりする工夫を行いました。ポイントポイントで見せていくと授業が細切れになったり、まとめて見せると授業内容で押さえたい瞬間と時間的な差が生まれたり・・・と生徒の集中力を切らないよう授業の流れを止めないでうまく

授業の中に取り入れていくという点でなかなか満足いく方法が見つかりませんでした。

4. 『視覚的に訴える授業を！しかも、授業をスムーズに流れさせながら！』

初めてアクティブボードの講習会を受けた時に「これだ！」と思い、自分自身の中でとても興奮しました。

アクティブボードは、書画カメラのようにただ、教材を大きく映し出すだけでなく、その画面に書き込みをすることができます。今までは、資料集の小さな写真や資料を指さしながら「ここがね」と話しをしていたのが、それらを大きく映し出すだけでなく、そこに書き込むことによって、補足説明をすることが以前よりも効果的にできるようになりました。

また、今までは低学年になるほど、クラス全員が地図帳の場所を確認するのにとても時間がかかりましたが、アクティブボードに地図帳の画面を映し、位置に印をつけることによって、以前よりもスムーズに位置の確認ができるようになり、授業の進度が速くなりました。

さらに、動画に関してもスイッチひとつでアクティブボードに映し出せるため、授業の流れを止めないで授業ができるようになりました。

5. 『試練の連続！』

最初の試みとして、授業を無駄なく展開していくために、今まで板書していたものをあらかじめ用意し、アクティブボードに板書内容を映し出し、そこに資料や地図などを組み込んでみました。しかし、実際にやってみると、クラス人数39人の中で板書するスピードが遅い生徒にとっては「ノートを全部書く前に画面がかわってしまう」という意見が多数出ました。

また、教室の後ろの座席に座っている生徒や窓側の生徒からは「光が反射して字が見えにくい」などという意見もあり、「今までの黒板の授業に戻してほしい！」と訴えてくる生徒も多く、従来の黒板のみの授業に慣れていた生徒にとっては簡単に受け付けてもらえませんでした。

6. 『その解決策として・・・』

*1 Takako Ueno : 東洋英和女学院 e-mail=ueno.t@toyoeiwa.ac.jp

【工夫その1】

板書のスピードが生徒によって違うという問題を解消するために、アクティブボードの画面を「スクロール式」に設定し、時間差で少しずつ画面が変わっていく方式に変更してみました。

《従来の黒板の場合》

まず左半分に板書し、次に右半分に板書し、その後、左半分の板書を消して新しく板書していくため、板書を写すスピードが遅い生徒でも、教師の板書説明とタイムラグはあるものの時間がかかってもノートを写すことが可能でした。

《アクティブボードのスクロール式の場合》

一挙に画面を次に切り換えるのではなく、最初に上半分の画面を映し出し、スクロールして徐々に下を映し出していくという方式にしました。

【工夫その2】

最初はアクティブボードの白い画面に黒い文字でホワイトボードに書く感じで書いていたのですが、アクティブボードの画面を生徒が今まで慣れていた従来の黒板の色に変更し、その画面に白い文字で書くという形に変更してみました。

7. 『現在の取り組みとして』

生徒の視点に立って、生徒にとって「50分間授業に集中できる」授業とはなにかを毎日試行錯誤しながら取り組んでいます。

今年度は、生徒が長年慣れてきた従来の「黒板」を基本とした授業展開の中で、アクティブボードを有効利用する方法を取っています。まず、中学生の授業では資料や配布したプリントをアクティブボードに映し出し、生徒が「目で見て」分かりやすい教材作りを心がけています。

また、高校生では、授業中に教師の説明を聞くことに集中させるため、大まかな板書内容をアクティブボードに映し出し、授業の全体像を把握させながら、従来の「黒板」と併用し、補足説明を加えていくという授業を行っています。その結果、これまでの授業よりも、より多くの資料を使用しているにもかかわらず、授業の進度としては以前よりも早くなったと思います。

しかし、現状に満足することなく、生徒の意見を受け入れながら「生徒が理解しやすい授業」を行うために、教科担当の先生と協力して日々努力しております。

8. 『電子黒板の輪は学内では全く広がらない現状』

私が電子黒板を使用して授業をし始めてから5年の月日が流れました。しかし、学校内では私以外に電子黒板を使って授業をしている先生方は残念ながら一人もいらっしゃいません。

電子黒板の輪が広がらない理由は、①電子黒板だと従来の黒板のように自分らしい字が書けない、②太陽の光が反射して見にくい生徒が必ずいる、③電子黒板を使用して授業をすると生徒達が自分だけのノート作りをする力が養えない印象が強い、④日々の業務で忙しく、電子黒板のソフトを使いこなすために準備する時間がない・・・という電子黒板に対するマイナスイメージが強いことがあげられます。

先生方のマイナスイメージを少しでもなくすため、現在私はパワーポイントで教材を作り授業で使用し、他の先生に紹介することで少しでも電子黒板での教材作りの高い敷居を少しでも低くしようと心がけています。それでも、各先生方から「自分の今までの授業スタイルを考えるとアクティブボードを使っただけの授業というのはちょっと想像できない」などというお声をいただきます。

学校の授業というものは、「生徒に興味関心を持ってもらう授業」を行い、生徒自身が探究心を養う要素となるべきだと私は考えます。

生徒はただ50分間教室に座って授業を聞いているという「与えられる授業」ではなく、「与えられ、それを受け入れ、参加できる」授業を行いたいと考えています。私はそのような授業を実践するために、創意工夫を行っていく過程でアクティブボードを使用しています。アクティブボードは我々教師にとって、一つの「ツール（道具）」でしかありません。ですから、同じ教科でも「地理」と「歴史」「公民」など科目が違えば、使用の方法も変わってきますし、教科が違えばなおさらです。

今回私が伝えたいのは「アクティブボードを使って授業をしなければならない」と考えるのではなく、お一人お一人の先生方が授業形態の工夫をなさる中で「ここがこんな風にできたら良いのになあ」と思っている点が、アクティブボードを使用することによって新しい道が開けるかもしれないということです。私も実際にそのような経緯でアクティブボードを授業に導入してきました。今後も努力していく所存です。